カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

高見名誉大司教、引退に伴う感謝ミサ ― 浦上司教座聖堂

これからも「教会のために、教会とともに」

3月21日（月）10時30分から浦上司教座聖堂で、ヨセフ高見三明名誉大司教の引退に伴う感謝ミサが行われた。

司祭叙階から50年、そのうち約18年間は長崎大司教として教区を導いてきた高見大司教。主司式を務める最後の公式の教区ミサには約60人の司祭団が集まり、修道者、信徒らも含め計400人ほどが参加した。

あいさつ

ミサの初め、高見大司教は「今日は、これまでわたしのため教区のためにお祈りし協力し支えてくださったすべての方々のために、また、亡くなった恩人の方々のためにこのミサの中でお祈りしたいと思います。そして、中村大司教様を中心に長崎教区が前進し、発展していきますように神様の祝福をお祈りしたいと思います」とあいさつし、ミサが続いた。

説教

高見大司教は説教の中で、神と、これまで出会ったすべての方々に対する深い感謝の気持ちを述べ、長崎教区と日本の教会の福音宣教のため、司祭と修道者の召命の恵みが与えられるよう祈っていくこと、また、人々のために祈り続けていく思いであることを伝えた。「これからも、わたしのモットーである『教会のために、教会とともに』を少しでも実践していきたい」とし、最後に「わたしのためにもお祈りいただければ幸いです」と添えた（説教の全文は3面に掲載）。

感謝式

聖体拝領後、高見大司教への感謝式が行われた。信徒を代表して浦上教会の大方心斗（まなと）さん（新高校1年）が花束を、そして、中村倫明大司教もサプライズで姿を現し花束を贈り、高見大司教は笑顔で受け取った。その後、教区修道女連盟を代表して山川裕美（ひろみ）修道女が寄せ書きと記念DVDを贈呈。聖堂は皆の温かい拍手であふれた。

また、司祭団を代表し、司教総代理の山脇 守師が感謝の言葉を述べた。山脇師は、188人の列福式、世界を駆け巡っての平和アピール、来年開かれる世界代表司教会議（シノドス）に先駆けて「参加し、交わり、宣教する教会」をテーマに長崎教区シノドスを開催したこと、大浦天主堂キリシタン博物館の開設、教皇フランシスコの来日・来崎に関わる働きなど、高見大司教のこれまでの取り組みを概観。「しかし、その他にもみんなに心配されることなどがあり、新聞沙汰にもなりました。今はこうして重責を退かれていろんなことから解放されて肩の荷を下ろされていることと思います。本当に長い間、重責を果たされたことに感謝申し上げます」と語り、大司教の今後のご健康を願いながら言葉を締めくくった。

高見大司教は、〝コロナ禍〟にもかかわらず多くの方がミサに参加したことに謝意を表し、「皆さんとの公のミサはこれで最後になるかと思いますが、まだ生きておりますので、どうぞこれからもお手柔らかに」とユーモアを交えて応えた。

このミサは聖ヨセフの祭日（3月19日）の典礼で行われ、感謝の思いにあふれるミサとなった。

ウクライナのために祈る

ウクライナ情勢をめぐり、平和を求めて繰り返し祈りを呼び掛けておられる教皇フランシスコの意向に心を合わせ、引き続きお祈りいたしましょう。

教皇フランシスコ

ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉献

教皇フランシスコは「神のお告げの祭日」3月25日、バチカンで共同回心式を執り行われ、ロシアとウクライナを聖母マリアの汚れなきみ心に奉献された（『バチカン・ニュース』）＝写真。

この奉献は、教皇が全世界の司教を通してすべての信者に呼び掛けたもので、日本の教会では3月23日、司教協議会会長の菊地 功大司教が「日本のカトリック信者の皆様」に宛て、発表した。「いのちが危機に直面しているこの状況を憂慮され、平和を求めるために様々に努力を続けておられる教皇フランシスコは、聖母の取り次ぎによる平和を求めて、来る3月25日（金）神のお告げの祭日のローマ時間午後5時（日本時間3月26日午前1時）に、聖ペトロ大聖堂において、ロシアとウクライナを聖母マリアの汚れなきみ心に奉献されます。なお3月25日は、1984年に教皇ヨハネ・パウロ2世がロシアを聖母マリアの汚れなきみ心に奉献した日でもあります」

バチカンによる「ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉献する祈り」は、長崎教区でも3月25日と四旬節第4主日のミサの前後に共に祈るよう中村倫明大司教から伝えられた。

また、復活の主日4月17日（日）のミサの中で教皇は、ウクライナや世界各地での紛争に心をとめ、平和を祈願した。

スルピス 森山信三師（福岡教区）大分教区司教に任命

教皇フランシスコは4月5日（火）、これまで空位が続いていた大分教区の司教に福岡教区司祭のスルピス森山信三師（63歳）を任命した。司教叙階式は7月3日（日）14時からJCOMホールトホール大分で行われる。

略歴　1959年1月17日福岡市生まれ。81年福岡大学卒業後、福岡サン・スルピス大神学院（現福岡カトリック神学院）入学。88年3月21日司祭叙階（福岡教区）。同年大名町教会助任、91年小倉助任、93年福岡小神学院院長、95年大牟田主任、2001年戸畑主任、07年西新主任、14年久留米主任、17年福岡コレジオ院長。20年4月カトリック中央協議会出向、21年4月から同協議会事務局長。

ガクタン司教 着座 喜びにわく仙台教区

3月19日（土）10時30分から仙台教区カテドラル元寺小路教会で、昨年12月8日無原罪の聖母の祭日に教皇フランシスコにより仙台教区司教に任命されたエドガル・ガクタン司教の司教叙階式・着座式が行われた。

主司式は東京教会管区の菊地 功大司教（東京教区）が務め、駐日教皇庁大使レオ・ボッカルディ大司教と日本の司教団が共同司式した。新型コロナウイルス感染症対策のため参列者の制限があったが、司祭団、信徒・修道者の代表者らが参列し、また、ガクタン司教の母国フィリピンを含む国内外の人々と祈りと喜びを分かち合うことができるよう式の様子がライブ配信された。

菊地大司教は説教の中で東日本大震災からの11年の歩みに触れ、ガクタン司教が大船渡などでさまざまな出会い、連帯と支え合いを生み出す中心におられたと振り返った。そして2020年、新型コロナの世界的な拡大に遭遇した私たちが、教会とは何であるのかを自問する機会を与えられているとし、このような中にあって、ガクタン司教を任命した教皇の配慮にも感謝の思いを語った。

ミサの終わり、教皇大使ボッカルディ大司教があいさつし、「フィリピン人宣教師が日本で司教になったことに、誰も驚くべきではありません。カトリック教会は宣教的であり、世界に開かれ、すべての人を包み、互いに与え、受け、誰も外人ではないことを意味しています」と語り、ガクタン司教への神の祝福を願った。

最後にガクタン司教は、東日本大震災後もぶれない指導力を示し続けた前仙台教区長・平賀徹夫司教と小松史朗師（教区本部事務局長）に謝意を表し、私たち教会がキリストと同じ思いを抱きながら一日一日いっそうの新しい創造へと歩むことができるよう希望した。モットーは「心も思いも一つに」。

〝イエス様に倣い、イエス様とともに働く〟

聖香油ミサ・司祭の日

4月12日（火）10時30分から浦上教会で聖香油ミサが行われ、主司式を務めた中村倫明大司教と約70人の司祭団、約150人の信者が共に祈りをささげた。

中村大司教は説教の中で、この春、神学校で新入生を迎えた喜ばしい出来事は在校生にとっても恵みであり初心に戻る機会となることを導入に、「司祭にとっては、初心に戻ることができるのが叙階式であり聖香油ミサである」と語り、司祭がこれからもイエス様に倣いイエス様とともに人々のために働くことができるよう、支えの祈りを願った。

また、ミサの終わりには司祭叙階の節目を迎えた司教・司祭の祝賀式があり、出席した高見三明名誉大司教と下口 勲師（いずれも金祝）、中島誠志師（銀祝）に信徒代表者らから花束が贈呈され、続いて司祭団を代表して長崎中地区長の久志利津男師からユーモアと思いやりに満ちた言葉が贈られた。今年ダイヤモンド祝・金祝・銀祝にあたる長崎教区内の司祭（本紙3月号既報）は、この4月にイエスのカリタス修道女会牧野修道院に赴任したサレジオ修道会のバルカザル・ペドロ師（金祝）を合わせて10人。

ほしかげ

ロシアの主力戦車1台約4.4億円。多種の戦車3000台以上を保有するロシアの戦車合計金額、約1兆4000億円。ロシアがウクライナに侵攻してから1カ月経った時点で、ロシアは約400台の戦車（約7000億円）を損失したと報道されています。1発約2200万円の対戦車ミサイル、巡航ミサイル1発約2億円、迎撃ミサイル1発約4億円、極超音速ミサイル1発約7億円▲スーパーAで199円の牛乳が、スーパーBでは192円なのを知り、少し遠くても歩いて7円安いスーパーBに行く庶民には到底理解できない桁違いの値段。普段からもうかっている武器商人は、防衛費を上げる国が増えてきている今、喜んでいるのでは▲人々の貧困は、ミサイル数発分のお金があれば、相当解消できるのに、何と愚かで罪深いわたしたち人間！「戦争はおろかなことだ！ 戦争に勝ちも負けもない。あるのは滅びだけである」（永井隆）▲イエスさまの言葉。「はっきり言っておく。金持ちが天の国に入るのは難しい。重ねて言うが、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」「貧しい人々は、幸いである」「剣を取る者は皆、剣で滅びる」▲ウクライナの早急な平和のため、国と国が兵器を必要とせずお互いに信頼し支え合う関係を築くため、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」。（小）

TENREI　Liturgy　TENREI　Liturgy　TENREI

ミサの式次第の新しい表現②
――「司式者」の場合

日本カトリック典礼委員会　嘉松 宏樹

今年の待降節第1主日から用いられる、新しい「ミサの式次第」。「司式者」としてミサをささげるにあたって新しくなる表現のおもな部分をご紹介いたします。なお、複数の選択肢があり、現行の式文を用いることもできる場合、また司式者のみが静かに唱える祈りの場合は割愛しています。

しい日本語版が発行されるまで、公式祈願は現行のものの結びの定句のみを新しい式文に差し替えて用いるため、司式者にとっては対応が複雑となる部分です。当面は、『毎日のミサ』など、該当部分を差し替えた発行物の利用をお勧めいたします。「奉納祈願」「拝領祈願」についても同様です。

ので、本年9月末頃発行予定の司式者用儀式書をご利用ください。すべての奉献文に共通する次の5つの部分は、「第一～第四奉献文」以外の奉献文を用いる場合も新しい表現に読み替えます。

①叙唱前の対話句――司祭は手を広げて言う。「主は皆さんとともに」会衆は答える。「またあなたとともに」**司祭は手を挙げて続ける。「心をこめて」会衆は答える。「神を仰ぎ」司祭は手を広げたまま続ける。「賛美と感謝をささげましょう」会衆は答える。「それはとうとい大切な務めです」**

②感謝の賛歌（サンクトゥス）――司祭は会衆とともに唱えて叙唱を結ぶ。「**聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める**神なる主。主の栄光は天地に満つ。**天には神に**ホザンナ。**主の名によって来られるかたに賛美。天には神に**ホザンナ」歌う場合は現行の感謝の賛歌を用いることができます。

③パンの聖別のときのことば――「割って」は「**裂いて**」に読み替える。

④聖別に続いて司祭が唱える「信仰の神秘」に答える会衆の応唱――三つの式文から選択する。

⑤「結びの栄唱」――**歌う場合も**唱える場合も**会衆は「アーメン」のみを唱える**。祭器具が多い場合は一組のパテナとカリスを掲げて全体を表します。

「交わりの儀」では、主の祈りの副文が新しくなりました。「いつくしみ深い父よ、……**世界に**平和をお与えください。あなたのあわれみに支えられ**て**、罪から解放され……」神の恵みによって罪から解放されることがより明らかに表現されています。

「教会に平和を願う祈り」は、規範版に従って改められ式文が加えられました。――司祭は手を広げて**はっきりと唱える。**「主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。『わたしは**平和を残し**、わたしの平和をあなたがたに与える』**主よ**、わたしたちの罪ではなく、……平和と一致をお与えください」**司祭は手を合わせる。「あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、世々とこしえに」会衆は答える。「アーメン」**前回の記事でも触れましたが、この「……世々とこしえに」「アーメン」はイエス・キリストに直接向かう祈りの結びかたです。

聖体拝領前の信仰告白も規範版に従って式文が加えられました。――司式者は**ホスティアを取り上げ、パテナあるいはカリスを添えて**、会衆に向かって**はっきりと唱える。「世の罪を取り除く神の小羊。**神の小羊の食卓に招かれた**人**は幸い」続くことばは司祭も会衆とともに唱えます。

開祭

「回心の祈り」の招きは典礼暦に合わせて選択できる例文が豊かになりました。司祭の結びのことばは次の通りです。「**全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの**罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように」ゆるしの秘跡の効果を持つものではないので、「ゆるしを**祈る**」と改められています。

「栄光の賛歌（グロリア）」は、「**天には**神に栄光……」と始まります。司式者以外に他の司祭や助祭、聖歌隊、先唱者が歌い出すこともできます。歌う場合は現行の「栄光の賛歌」をそのまま用いることもできます。

「集会祈願」の結びは新しくなりました。一番多く用いられる御父への祈願の場合、「聖霊**による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々とこしえに生き、治められる御子**、わたしたちの主……」と唱えます。また、当然、御子に向かう祈願では別の表現が用いられます。『ローマ・ミサ典礼書』の新

ことばの典礼

福音朗読の終わりに朗読福音書を両手で掲げて、「**主のみことば**」と唱えます。

感謝の典礼

「供えものの準備」では、ぶどう酒を供える祈りが新しくなりました。「神よ、あなたは万物の造り主……わたしたちの**救いの杯**となるものです」この祈りは受け取ったパテナやカリスを祭壇の上に少し持ち上げて唱えます。

祈りへの招きのことばは、一同がともにミサをささげることを明らかにするものに変わりました。「皆さん、**ともにささげるこのいけにえを**、全能の**父である神が**受け入れてくださるよう祈りましょう」

「奉献文」の選択は司式者の自由です。「第一～第四奉献文」は細かなことば遣いが新しくなります

閉祭

「閉祭のことば」では、「ミサ聖祭」という表現はなくなり、「感謝の祭儀」のみになりました。

（次回は「侍者」の場合です）

ウクライナのための祈り
各共同体でミサや行進、ロザリオ

ロシアによる軍事侵攻で状況が悪化し続けているウクライナのために、世界と日本の各地でさまざまな動き、取り組みが行われている。日本のカトリック教会においても、教皇フランシスコの意向に心を合わせ祈りをささげるよう日本司教団が呼び掛け、カリタスジャパンの「ウクライナ危機人道支援」緊急募金受付も続いている。長崎教区では中村倫明大司教の呼び掛けをはじめとし、各共同体で平和を願う祈りの時間がもたれている。

浦上司教座聖堂で――中村倫明大司教は3月17日、教区のすべての人々に向けて「20日（日）15時から、それぞれの場で、あるいは集まって、ロザリオの祈りをささげるよう」呼び掛けた。当日、浦上司教座聖堂には約150人が集まりロザリオを唱え、その後、教区を代表して中村大司教が主司式を務めミサを行った。

被爆マリア小聖堂で（右の写真）――教区平和推進委員会は3月27日（日）15時から浦上教会被爆マリア小聖堂で「ウクライナと全世界の平和を願うミサ」を行い、同時にこのミサはライブ配信された（QRコードから視聴可）。

爆心地（原爆落下中心地）公園から西坂公園へ――3月19日（土）フォコラーレ主催による平和行進があり、宗教を超えて集まった約30人が、爆心地公園から西坂公園までの道のりを平和を願って行進した。同日、ウクライナのための募金活動も行われた。

平和公園で――城山教会レジオマリエは、主に長崎市内の教会に呼び掛け、3月21日（月）15時、平和祈念像前に集まった約80人がロザリオの祈り（苦しみの神秘）と「結び目を解く聖母マリアの祈り」をささげた。

使徒ヨハネ 橋本 勲師が引退

53年間にわたり司牧に専念された橋本 勲神父がこのほど引退した。これまでの奉仕に感謝するとともに、これからの健康を祈りたい。

略歴　1942年6月21日平戸市生まれ。紐差教会出身。69年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年出津、71年飽の浦、75年紐差で助任。85年木鉢主任、89年から要理教育研究所所長兼務。97年カトリックセンター司牧企画室長、2003年教区本部事務局長。09年上神崎、15年中町、19年黒崎で主任。その後、病気療養。21年サバティカル（カトリックセンター）。

人事異動・任命

（　）内は前任地など

▼教区〔5月1日着任〕
橋本　勲師　引退（病気療養、カトリックセンター）
山田　聡師　大山協力司祭（病気療養、福岡カトリック神学院）
鶴﨑伸也師　紐差主任（神ノ島主任）
山内啓輔師　神ノ島主任（教区会計補佐、中町・大山協力司祭）

▼派遣
下窄英知師　大分教区・光の園（大分教区・司教館）

▼韓国殉教福者聖職修道会〔5月1日着任〕
カン・デフン師　中町協力司祭（香焼協力司祭）

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話（095）846-3598
電話（0957）50-3008

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844－4011
24時間営業　FAX(095)843－9896

2022年3月21日　浦上司教座聖堂

引退に伴う感謝ミサでのことば

名誉大司教　ヨセフ 髙見 三明

今日、中村大司教様は還暦を迎え、わたしは76歳になりました。わたしたちの誕生日は同じです。昨日はわたしの司祭叙階50周年でした。50年のうち、福岡の大神学校で司祭養成のために30年、長崎大司教区の補佐司教そして大司教としてほぼ20年になります。来月（4月）29日は司教叙階20周年です。

今日は、これまで数知れない多くの方々に支えられ、励まされ、生かされたことを深く思い、すでに亡くなられた方々も含めて、お世話になったすべての方々、ここにお集まりの皆様方のためにキリストの感謝の祈りに合わせてお祈りをささげたいと思います。

今日お話ししたいことはたくさんありますが、3つの点についてお話ししたいと思います。それは、お詫びと感謝と祈りの約束です。

1　お詫び

まず神様にお詫びいたします。神様はわたしにいのちを与えて存在させ、常にご自分に対してもわたしに対しても忠実かつ誠実であられたのに、わたしは、自分の生涯、特に司祭生活、司教としての生活を通して、しばしば忠実でなく、誠実でないときがありました。「自分の望む善は行わず、望まない悪を行（う）」（ローマ7・19）ことがありました。ですから、まず神様にお詫びを申し上げ、赦しを願わなければなりません。これからも不忠実なときがあるかもしれませんが、赦しを願いながら、また恵みを祈りながら神様に対して忠実であるように、そして人に対して誠実であるように努めてまいりたいと思っています。

また、わたしとしては意図的に人を苦しめることはしないように努めてまいりました。しかし、わたし自身の徳の不足と配慮の不行き届きなどのために思わぬ事態になってしまい、教区の皆様にご心配やご迷惑をかけただけでなく、カトリック教会の信頼を傷つけました。この場をお借りして、あらためて皆様方に深くお詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

神様に愛され、皆様方にも愛されていること、また社会生活においても教会生活においても愛と信頼関係は非常に重要なカギであるということをあらためて痛感しております。これからも愛と信頼関係を自分の生活の軸にしていけたらと思っております。

2　感謝

もう一つは感謝です。神様は、わたしを司祭になるよう招いてくださり、その時その時に応じて、人々のために役立つ者になるよう、さまざまな人を介して導いてくださいました。そのような神様にまず感謝をおささげいたします。

わたしは、小学生の頃アメリカ人の主任神父様のスータン姿にあこがれて、神父様になりたいと思ったことがありました。しかしその憧れはそれほど長く続きませんでした。しかし中学2年の終わりの頃、父親から声がかかり、ある修道会に行くように言われました。ところが当時の主任司祭だったイエズス会の神父様の一声で公教神学校に行くことになりました。大神学校では、神学校の神父様から、司祭養成のために働かないかと声をかけられました。そして20年前に、教皇庁大使を通して教皇様から声をかけられて司教に召されました。こうして今日、76歳の誕生日を迎えました。これまでわたしの人生のキーパーソンになった方々は神様のもとに召されましたが、彼らに深い感謝の心をささげたいと思います。また絶えず祈りと支えと励ましをくださった、数限りない方々にも心から感謝を申し上げます。名前を挙げればきりがありませんので、すべての方々に心から、感謝を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

神父様方には大変お世話になりました。またご迷惑やご心配をおかけしたと思います。シスター方には霊的にも物質的にも絶えず支えていただきました。信徒の皆様には祈りと犠牲をささげていただきました。言葉では言い尽くせない感謝の気持ちでいっぱいです。

さらに、司教になってからさまざまな歴史的な出来事に関わらせていただきました。2008年11月24日のペトロ岐部と187殉教者の列福式、日本の信徒発見150周年記念と最初の教区シノドス、2017年2月7日のユスト高山右近の列福式、2018年6月の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」世界文化遺産登録の正式決定、フランシスコ教皇様の来日など。

その間には、二つの大神学校の合同、そしてまた二つに分かれたこと、何よりも召命の激減という現実があります。今後の大きな課題の一つです。

わたしは、司祭としても司教としても決して模範的だったわけではありませんが、もし何か役に立ったのであれば、神様の恵みと皆様方のご協力によるものです。

3　祈りの約束

大司教として、「参加し、交わり、宣教する」教会づくりを目標にかかげて教区の組織づくりに力を注ぎ、教区シノドスを開催して長崎の教会共同体の霊的刷新を目指しました。しかし決して簡単なことではありませんでした。中村大司教様には大きな宿題を残しますが、大司教様は長崎の教会共同体の霊的刷新を力強く推し進めてくださるものと思います。

わたしの保護者は聖ヨセフです。聖ヨセフはいわば黒子です。わたしは、これまで表に立つ必要もありましたが、必要でないのに表に立ち過ぎたかもしれません。これからは、聖ヨセフにもっと近づきたいと思います。

とりあえず、やり残したことを少しずつ片付けながら、常に長崎教区と日本の教会の福音宣教のため、司祭と修道者の召命の恵みが与えられるよう祈ってまいる所存です。

当分（これまでと）同じ大司教館の最上階に住まわせていただきます。引退大司教というのはさみしいので、名誉大司教と呼ばれています。しかし、何の権限も力もない名前だけの大司教です。どうぞ気楽に声をかけてください。

これからも、わたしのモットーである「教会のために、教会とともに」を少しでも実践していきたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。皆様方のために祈り続けることをお約束します。わたしのためにもお祈りいただければ幸いです。

今日はありがとうございました。

教皇ヨハネ・パウロ2世からパリウム（大司教の任務と権能、教皇との一致と交わりを象徴）を受ける＝2004年6月29日バチカン

ペトロ岐部と187殉教者列福式で、長崎の殉教者について紹介する髙見大司教＝2008年11月24日長崎県営野球場

原爆65年のローマ・スペイン平和巡礼で教皇ベネディクト16世に謁見し、教皇に被爆マリア（中央）を紹介＝2010年4月21日バチカン

日本の信徒発見150周年を前に、長崎教区で初めて行われた教区シノドス（第3会期）＝2014年9月14日長崎大司教館

日本の信徒発見150周年記念ミサ。教皇特使ケヴェド枢機卿㊨を迎え行われた＝2015年3月17日大浦天主堂

来日した教皇フランシスコがミサを司式。日本カトリック司教協議会会長として迎えた＝2019年11月24日長崎県営野球場

©カトリック中央協議会

髙見三明大司教　司教としての20年間・主な出来事

1946年3月21日長崎市生まれ。三ツ山教会出身。72年3月20日浦上教会で司祭叙階。

- 2002年2月7日教皇ヨハネ・パウロ2世により長崎大司教区補佐司教に任命、4月29日司教叙階。8月島本要大司教が青年聖地巡礼の引率中に体調を崩し、帰国翌日の31日急逝。教区管理者（＝使徒座管理者）となる。
- 03年10月17日教皇により長崎大司教に任命、12月14日着座。モットーは「教会のために、教会とともに」。
- 04年教区諸委員会第2期活動開始。教区長の諮問機関である司祭評議会（第1回）開催。
- 05年4月2日、教皇ヨハネ・パウロ2世逝去。4月19日、教皇ベネディクト16世が第265代教皇に選出。8月9日、浦上教会被爆マリア小聖堂の祝別。
- 06年3月、教区信徒使徒職評議会が解散。05年4月に発足した小教区評議会に続いて、06年4月以降に地区評議会と教区評議会が発足。
- 07年2月12日、江袋教会が火災で全焼。7月15日、浦上教会で邦人司教区設立80周年記念ミサ（7月16日設立）。
- 08年11月24日、長崎県営野球場でペトロ岐部と187殉教者列福式（日本での列福式開催は初めて）。
- （福岡サン・スルピス大神学院が東京カトリック神学院と統合し）09年4月日本カトリック神学院福岡キャンパス開校。
- 10年4月から5月にかけて、被爆マリアを携えてローマ・スペイン平和巡礼に続き、核拡散防止条約（NPT）再検討会議開催に合わせ米国ニューヨーク国連本部などを訪問。5月9日、江袋教会の落成・献堂式。
- 12年6月8日、日本二十六聖人列聖150周年記念。
- 13年2月11日、教皇ベネディクト16世が辞任を表明。3月13日、教皇フランシスコが第266代教皇に選出。4月福岡コレジオ開校（長崎コレジオは15年2月閉校）。
- 14年5月4日、教区代表者会議（教区シノドス）開会。
- 15年3月17日、日本の信徒発見150周年。シノドス閉会。
- 16年6月から日本カトリック司教協議会会長（21年12月28日、新長崎大司教の任命まで）。10月21日、大浦天主堂で同天主堂の「小バジリカ」認定感謝ミサ。
- 17年2月7日、大阪城ホールでユスト高山右近列福式。7月16日、浦上教会で浦上四番崩れ150周年記念祭。11月23日、浦上教会で宗教改革500年共同記念式典。
- 18年4月1日「大浦天主堂キリシタン博物館」開館。7月4日「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録。7月22日、浦上教会で「旅の始まり150周年記念」。
- 19年4月福岡カトリック神学院開校。9月16日、中村倫明補佐司教の司教叙階。11月23～26日、教皇フランシスコ来日（24日来崎）。
- 20年2月末、新型コロナウイルス感染症による影響のため長崎教区で初めて公開ミサが中止となる。7月7日、「核なき世界基金」創設（運営委員）。
- 21年1月22日、「被爆地広島と長崎のカトリック司教による共同声明　核兵器禁止条約の発効にあたって」発表。5月21日午後6時から浦上教会被爆マリア小聖堂で、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの終息を願ってロザリオの祈り（バチカン主催）、ライブ配信。10月17日、浦上教会で2023年10月開催の世界代表司教会議（シノドス）に向けた開会ミサ。12月28日、長崎大司教退任願いを教皇フランシスコが受理。
- 22年2月23日引退し、長崎大司教区の名誉大司教となる。

レジオマリエ 創立100周年を祝う

長崎レジア　林田 健治

ここ日本では、長崎の高島教会で1948年に設立され、現在大阪セナートスを中心に「東京レジア」（関東以北）と「長崎レジア」（九州・沖縄）で構成され、約1400人の活動会員と約4300人の賛助会員が祈り、活動をしています。

レジオマリエの目的は会員の聖性、使徒職の養成、教会内外の福音化です。そのモットーはマリア様に倣って、神への信頼と従順です。会員の養成は主に小教区内で組織されたグループ（プレシディウム）での集会で培われます。集会内容は、祈り、霊的読書、司祭の短い訓話、毎週1回会員に割り当てられる活動（教会内外の奉仕、家庭訪問、病院施設へのお見舞い、その他）の報告などです。「収穫は多いが働き手が少ない」働き手が増えるよう主に祈る日々を重ねている昨今ではあります。

このような現状の長崎レジア（指導司祭・葛嶋秀信師、田中美智代会長）も3月13日（日）13時30分から中町教会において、先日着座されたばかりの中村倫明大司教様にご臨席いただき、数人の司祭らと共に100周年記念お祝いのゴミサを司式していただきました。

中村大司教様は説教の中で、「着座直後の私に、ある小教区のレジオマリエ会員から『ウクライナの現況を鑑み、祈りや支援の集いを催したいが、認可をお願いできますか？』と電話があり、心を揺り動かされた」ことを紹介。そして大司教様から「これからも常に苦しむ人々を思いやるマリア様の精神を大切にして頑張るよう」励ましの言葉をいただきました。

ミサ後に続いて行われた慣例の誓約式（年1回）では、いつになく意気に感じながら、今年もまた「すべてをマリア様にささげる心」を誓いました。

創立100周年記念ミサ後、マリア像の前で誓いを新たにする会員ら（3月13日）

レジオマリエ（マリア様の軍団）はカトリック教会の承認を受けた信徒使徒職の一つで、1921年アイルランドにおいて創立されました。そして、昨年から世界各国のレジオマリエがコロナウイルス感染防止対策を取りながら100周年を祝っています。

教区顧問会 行われる

教区顧問会が3月22日（火）、大司教館で開催された。

主な審議事項は次の通り。まず、昨年12月14日開催の顧問会で承認された特別会計規程に従って、運用基金特別会計を廃止し、財政調整基金特別会計を開始することが確認された。加えて、「不動産取得資金特別会計規程」「教会保全基金特別会計規程」の改定が承認された。その上で2022年度収支予算書が審議され、承認された。次に、「新型コロナウイルスとともに生きるカトリック長崎大司教区の基本方針」が見直され、新年度から施行されることが確認された。

主な報告事項として、特別教区シノドスについて、4月3日の会議を取りやめ、各地区から提出された報告書と7年前の教区シノドスの提言書を合わせてまとめられ、5月29日の教区評議会役員会で報告と確認がなされる予定である。また、2月23日の中村大司教着座式について報告された。

他にもいくつかの審議や報告があった。

日本の信徒発見の聖母
記念ミサで祈りささげる

3月17日（木）19時から大浦天主堂で日本の信徒発見の聖母記念ミサが行われた。ミサは新型コロナ感染対策を取りながら、中村倫明大司教の主司式、12人の司祭の共同司式のもと、約60人が参加してささげられた。

中村大司教は説教の中で、1865年の〝信徒発見〟の出来事を紹介し、プティジャン神父と浦上キリシタンたちとの出会いに聖母マリアの存在が欠かせなかったことについて触れた。また、この日の福音（ヨハネ19・25－27）から「見なさい。あなたの母です」を引き、「どんなに苦しいつらい時でも、母であるマリア様は決して私たちのそばを離れることはありません」と語り、「私たちが今日あらためてマリア様を〝発見〟し、苦しむ人々に寄り添い祈り働くマリア様の子どもとして生きていくことができるように」と恵みを願った。最後に、現在厳しい状況が続いているウクライナの平和のためにも祈るよう招いた。

長崎教区
浦上で選任式

3月19日（土）10時から浦上教会で選任式が行われ、ボナベントゥラ ホン・チャンキ神学生（浦上教会）が祭壇奉仕者に、トマ廣田 学神学生（鹿子前教会）が朗読奉仕者にそれぞれ選任された。

進学、入学の神学生・志願生

◆福岡カトリック神学院
哲学科1年
森　翔真（太田尾）

◆福岡コレジオ
大学1年
森本　想（浦上）
中村福太郎（三井楽）

◆長崎カトリック神学院
高校1年
中尾　誠一（福江）

◆聖コルベ志願院
中学1年
上川　福人（東京教区・亀有）

みことばにふれて 190
ナム・シジン 神父
（テグ教区司祭、滑石教会）

「行きなさい」（ヨハネ8・11）

姦通をした女がイエス様のところに連れられて来ます。石を持って投げ殺そうとしている人たちに囲まれて、真ん中におびえている女がいます。

「罪のない人は石を投げなさい」というイエス様の言葉で年長者から去っていき、群衆に囲まれていた女はイエス様と2人きりになります。大勢の群衆の中でおびえていた女は、ただ一人イエス様との関係の中でのゆるしと新しい生活への派遣で、この話は終わります。イエス様の温かい言葉は、その女を罪の淵から立ち上がらせてくれます。

掟を大事にしていたいわゆる知識者の冷たい態度は、良心の自問の形で戻ってきます。

私たちはどのような言葉を使っているでしょうか。社会の中で私たちは誰かに投げようと思って、常に石を手に握ってはいないでしょうか。

知識者といっても、本当の知るべきものは知らないままでいるのではないでしょうか。イエス様のゆるしと「行きなさい」の言葉は、私たちを新しい知識へと招いてくれます。

新しい知識というのは、単に頭の良さという賢くなるための要素ではなく、人の気持ちを読む知識です。人の気持ちを分かってあげること、そこから救いは始まります。度々私たちの務めの中で気持ちが失われる時があるでしょう。見えるものばかりを大切にしてしまうと、見えないものがより見えなくなってきます。

イエス様は毎日、救いへの道に参加するよう「行きなさい」という言葉で私たちを派遣しています。教科書や参考書には書かれてなく、ただ私たちの心の中に刻まれている愛し重んじる心は、派遣されることによって、初めて発動します。

すべてのことに是非をわきまえようとする人間と違って、神様の愛はすべてのことを知っていても沈黙の形で近づいてきます。ゆるしてくださる神、私たちの弱さを知っているからいつでもゆるす準備ができている神様です。沈黙はゆるしの別の名であると思います。

この世に広まっていく復活の喜びが、派遣される私たちによって沈黙の形で、静かに、穏やかにこの世に伝えられ、新しい派遣に喜んで従うことができるように祈ります。

クリスマス募金 支援報告

教区評議会は、自然災害による被災者、国内外の生活困窮者への支援を目的として、昨年12月1日から今年1月16日にかけて「クリスマス愛の募金」の協力を呼び掛けた。募金は507万4450円（1月21日現在）集まり、同評議会は前年度の繰越金130万6338円と合わせて次の活動団体に送金した。

▼長崎ホームレスを支援する会 50万円▼長崎ダルク 50万円▼福岡美野島司牧センター 50万円▼東京山友会 50万円▼大阪旅路の里（釜ヶ崎）50万円▼ドリームカムホーム青少年自立援助 50万円▼生活困窮者への支援として教区福音化推進部へ 20万円▼佐世保隣人愛の会 10万円▼声の奉仕会・マリア文庫 10万円▼長崎カトリック聴覚障害者の会（長崎と佐世保）各10万円▼聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ会 10万円▼モナの会 10万円▼大村外国人を支援する会 10万円▼一粒の麦の会 10万円▼外国人のための医療相談会 10万円▼コンゴ平和学園 50万円。

また、1月22日以降に寄せられた募金は次年度に繰り越される。

お知らせ

〈一菜募金の支援状況〉
▼火災により被災した桐小教区信徒へ見舞いのため、15万円（3月15日送金）。▼「ウクライナ危機人道支援緊急募金」としてカリタスジャパンへ500万円（4月4日送金）。

〈雲仙殉教祭 中止〉
5月の雲仙殉教祭は、新型コロナウイルスによる影響で今年は中止することとなった。

感謝

―寄付―
長崎大司教区
●匿名様（相浦）

―香典返し―
長崎カトリック神学院
●伊東涼子様（浦上）
故ヨゼフィナ
川添ホノ様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

CALIS Catholic Life Service
カリス通信 5月号
教会学校・その他行事傷害見舞金制度のご紹介

教会では、信徒・未信徒の小学生、中学生を対象としたカトリックの宗務教育の一環として、教会学校（他、教会主催行事）が行われております。例えば、ミサ、聖書の勉強、聖歌の練習、遠足、バザー、キャンプ、お泊り会、クリスマス会など様々です。
カリスでは、教会学校に参加される司祭、リーダー、父母、生徒などが教会学校参加中や活動場所と自宅との往復途上に被ったケガを補償する「教会学校・その他行事傷害見舞金制度」を提供しております。加入タイプによって、参加者が起こした賠償事故の補償もご用意しております。

＜主なお支払い事例＞
• イベントを手伝った信徒がバランスを崩して転倒し、肘を骨折した。
• 教会学校参加中、小学生が転倒し歯が折れた。
• 教会学校参加中、子どもが遊んで着地に失敗し左ひざを打撲した。
• 子どもが園庭で転んで、園庭の階段に鼻の下を打って顔面をケガした。

＜対象となる行事＞
①日帰り行事、②宿泊行事
＜行事に対する掛金、補償内容＞
①日帰り行事（A・Bタイプの場合）は、熱中症も担保しています。1日単位のプログラムで掛金は1名10円と、1名70円（賠償責任補償付）の2タイプをご用意しております。
②宿泊行事（C～Hタイプの場合）は、宿泊する日数に応じて、掛金は1名90円から190円の6タイプをご用意しております。ご加入者は、小教区単位になります。（修道院などがご加入者となることも可能）
本制度では、毎年700近くの教会学校や各種行事にご加入いただいております。制度は毎年6月1日開始ですが、期間の途中でもご加入いただくことが可能です。
※本ご案内は「カトリック教会学校・その他行事傷害見舞金制度」の概要についてご紹介したものです。ご契約にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033　カトリック共済システム 検索　21-TC11310
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください